

Rising sun

朝日町学力向上推進委員会



平成27年度全国学力・学習状況調査は、国語科、算数・数学科、理科の3教科が実施されました。朝日町学力向上推進委員会では、朝日町の小学校6年生と中学校3年生の本調査の解答の傾向について話し合いました。

そこから見えてきた成果と課題を踏まえた、学習指導の参考となるポイント等について報告します。



< 総括 >

原点に立ち戻って見つめ直す

委員長 竹内 康彦

今年度も全国学力・学習状況調査の結果が出ました。私たち教員は、とかく全国平均や県平均との比較や本県の全国順位等に意識が奪われがちですが、結果に一喜一憂することなく、今一度この調査本来の目的を再認識し、これからの学習指導や生活指導に役立てたいものです。

昨年度は、朝日町小中学校の全教職員が小中学校9年間継続して指導する内容を「あさひスタンダード」として共有し、当たり前前の方が当たり前前ができるよう、心をひとつに継続して指導することの大切さを指摘しました。本資料4Pに掲載してありますように、今年度実施した「学習規律に関するアンケート調査」の結果から、学習規律の確立に向けた先生方の真摯な取組状況を伺い知ることが出来ます。今後も継続して取り組んでいきましょう。

さて、今年度の朝日中学校の学習状況調査の結果から「はっ」と思うことがありました。それは、以下の項目の「当てはまる」と回答した値が、全国・県の値から10～20ポイント以上も下回っていたのです。

- ・ 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思うか。
- ・ 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思うか。
- ・ 授業で扱うノートには、学習の目標を書いていたと思うか。

これは周知のとおり、「とやま型学力向上プログラムⅠ期」に示されているものであり、全ての教師が日々実践すべき内容です。授業の「いろは」と言っても過言ではありません。しかし、教師がやっているつもりでも、実際には生徒に届いていないという現状が浮き彫りになりました。

このことを踏まえ、「あさひスタンダード」による学習規律の確立と共に、「とやま型学力向上プログラムⅠ期」の内容項目により授業を再点検することが急務だと考えます。

今回の調査結果を通して、目の前の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今一度、原点に立ち戻って自らの教育実践を見つめ直す機会としたいものです。

< 国語科 >

分析・課題

() のポイントは、朝日町の児童生徒の結果が、全国の正答率の結果より上回っているポイントを示しています。

【小・中学生共通】

- 小中学生に共通している課題として、問題文の意味が読み取れていないため、正しい答えが導き出せないのではないかと考えられます。

< 小学生 >

- **小学生**は、文の中の主語を捉えることができます。(+18.8p : 国語A)
- 登場人物の気持ちの変化を想像しながら、音読する力が付いています。(+16.7p : 国語B)
- 「引用」とはどうすることか、理解が不十分な児童がいます。

< 中学生 >

- **中学生**は、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができます。(+14.1p : 国語A)
- 文脈に即して、漢字を正しく読むことができます。(+8.8p : 国語A)
- 単語を正しく分類できていません。文節としての文中での働きとの関連が理解できていないためだと思われます。
- 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に説明することが課題です。

提案・お勧め



- ★ 問題文を的確に読み取るために、問いのポイントに傍線を引いて読むことを指導します。
- ★ 引用して紹介する機会を意図的につくります。例えば、感想を発表する時や調べ学習をまとめる時などに引用を指導します。併せて、引用する場合は出典を明示することを指導します。
- ★ 文節の働きとその文節の中心になっている単語を結び付けて考えるよう指導します。例文を使って、比較したり書き換えたりして練習することをお勧めします。
- ★ 自分の意図や理由についてまとめ、具体的に説明することを普通の授業に取り入れていく必要があります。児童生徒が理由を説明し、そのことについて質問や助言をします。そうすることで、話し合いのスキルを育てます。

< 理科 >

分析・課題



< 小学生 >

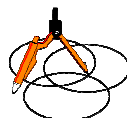
- **小学生**は、メスシリンダーの名称を理解することができます。(+17.9p)
併せて、メスシリンダーで一定の量の水を量り取る技能が身に付いています。
- 水は熱せられた部分が移動して全体が温まることを理解することができます。(+13.9p)
- 水が水蒸気になる現象を「蒸発」という科学的な言葉や概念として理解することができます。(+13.4p)
- 電磁石の基礎知識は身に付いていますが、実験の技能が身に付いていないようです。児童が実際に実験をする機会が少なかったのではないかと考えられます。

< 中学生 >

- **中学生**は、電磁石を利用した技術の仕組みを示す場面において、コイルと磁石の相互運動で誘導電流が得られるという知識を活用して、回路のスイッチの入り切りによる、磁界の変化を説明することができます。(+18.2p)
- 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができます。(+12.6p)
- 雲の成因に関する知識を活用して、資料を基に他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができます。(+10.5p)
- 3学期に学習する単元の理解度は低いです。

<算数・数学科>

分析・課題



【小・中学生共通】

- 小学校では、割合や面積の学習、中学校では、文字式や方程式の学習において、文章題の内容を具体的にイメージすることができないため、適切な式を導き出すことが苦手な児童生徒がいます。

<小学生>

- **小学生**は、示された割引後の値段の求め方から誤りを指摘し、正しい求め方とその答えを言葉や数を用いて記述することができます。（+9.4p：算数B）
- 見取図と展開図を関連付けて、立体の辺や面の位置関係を理解することができます。（+7.4p：算数A）
- 角度や概数、お釣りを求める場面等では、「およそ〇〇」と見当をつけてから、問題を考える力を付けさせたいです。



<中学生>

- **中学生**は、反比例のグラフとは、 x 軸 y 軸に限りなく近づく二つの滑らかな曲線のグラフであることを理解できています。（+14.4p：算数A）
- 関数を活用して、問題を解き、数学的に説明する力が付いています。（+7.9p：算数B）
- 学習したことを普段の生活の中で活用できていると実感している生徒の割合は低いです。

提案・お勧め



- ★ 文章題を解く力を育てるためには、文章題を図式化することを指導します。割合の問題では、2本の数直線を使って図に表します。また、キーワードになる数量や言葉に線を引く、□（箱）を付けて考えるポイントを明確にします。これらを基にして式を立てる力を身に付けるようにし、解くことにつなげていきます。
- ★ 見当をつける力を付けるために、フラッシュ教材の活用をお勧めします。概数や角度を視覚で捉える学習を通して、およその数や角の大きさに慣れ、数学的感覚を身に付けるように指導します。
- ★ 単元の導入では、日常の事象に関わる課題を設定します。そうすることで、算数・数学を活用して課題を解決する必要性を感じることができます。
- ★ 課題について、児童・生徒がノートにまとめた考えを実物投影機で拡大提示をして、クラスで話し合ったり、デジタル教科書を使って式内の数値や図形の形を変化させて、図形や関数グラフの特徴を理解したりするなど、ICTを活用した学習活動をお勧めします。

提案・お勧め



- ★ 小学校5年「もののとけ方」の学習では、シュリーレン現象の観察を通して、「もっと溶かしてみたい。」「溶ける量には限度がある。」など、児童が持った考えを大事にして学習を進めることが大切です。このことが、「シュリーレン現象が見えにくくなってきた。」「溶かすときの条件を考えよう。」という追究につながると考えます。児童の思考を大事にして、問題解決的な学習を行うことをお勧めします。
- ★ 中学校1年「身のまわりの物質」の学習の導入では、6つの実験試料を用意し、何種類の物質があるかを見つけるために、生徒が自分で実験方法を考える学習活動を仕組みます。そうすることで、生徒は必要感を持って実験することができると考えます。さらに、問題を解決していく過程で、ガスバーナー等の実験器具の使い方や「有機物と無機物の違い」などの学習に取り組むことにもつながります。このように、生徒が主体的に実験に取り組む学習を設定することをお勧めします。

確立させたい学習規律について、及び授業に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。結果を報告します。

※ 数値は、アンケートの「よくしている」「まあしている」を合わせた「している」の回答の割合です。

確立させたい学習規律についてのアンケート

小学校

児童、先生とも、時間を守って授業を始める意識が高いです。

学習準備：必要な物が机の上に整理されて置いてある。

時間を守る：ベルとともに授業が始まる。

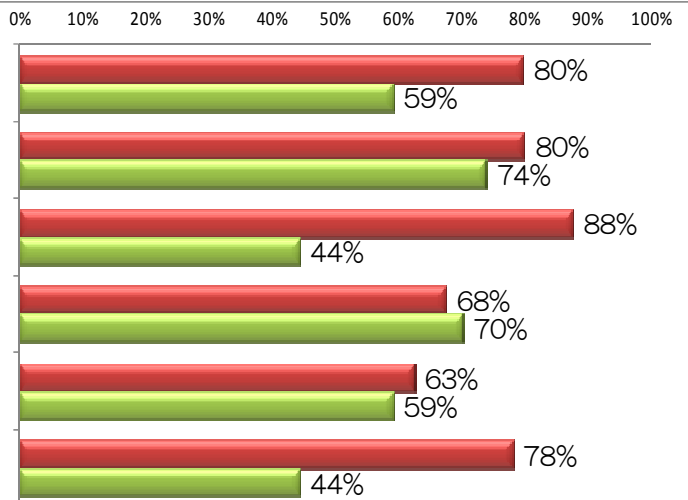
話の聴き方：していることを止める。話す人に体を向ける。相手の目を見る。



ノートの書き方：指示に応じて板書等を丁寧に書く。

提出物：丁寧に作成し、期限を守る。

話し方：相手に伝わるような声量・速さで話す。



■小学校児童(11月) ■小学校先生(11月)

中学校

生徒、先生とも学習準備についての意識が高いです。

学習準備：必要な物が机の上に整理されて置いてある。

時間を守る：ベルとともに授業が始まる。

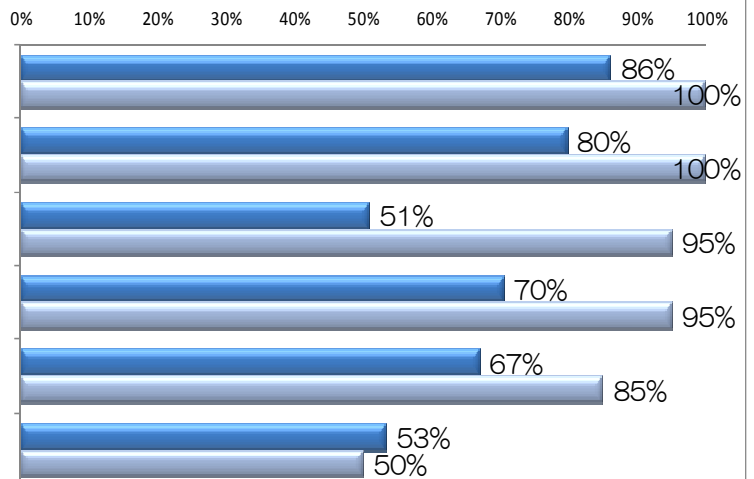
話の聴き方：していることを止める。話す人に体を向ける。相手の目を見る。



ノートの書き方：指示に応じて板書等を丁寧に書く。

提出物：丁寧に作成し、期限を守る。

話し方：相手に伝わるような声量・速さで話す。

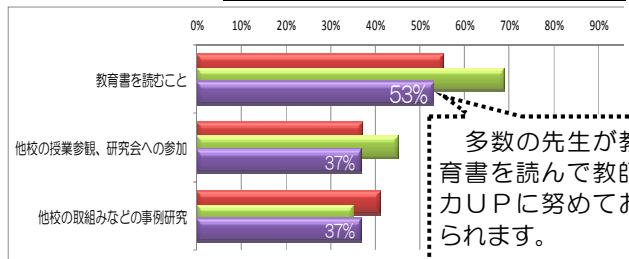
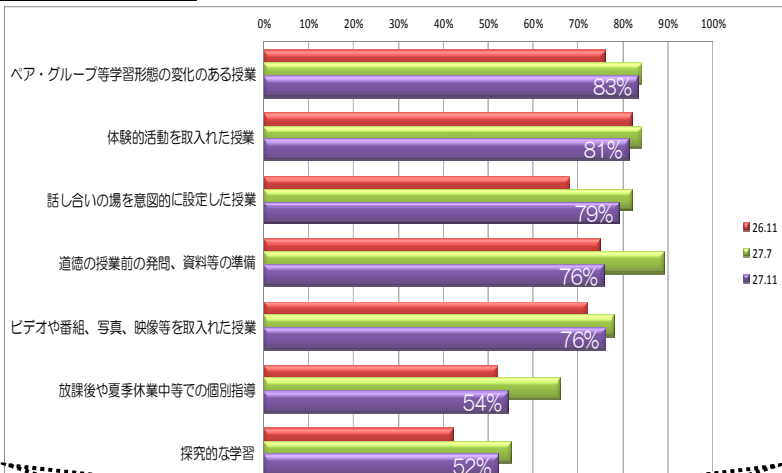


■中学校生徒(11月) ■中学校先生(11月)

授業の取組み

授業に関するアンケート

教師力を高めるための取組み



多数の先生が教育書を読んで教師力UPに努められます。

日頃から、ペアやグループ学習、体験的な活動などを取り入れた授業を実践しておられる先生が多いです。

授業に、デジタル教科書やタブレットを取り入れておられる先生が増えています。

朝日町学力向上推進委員会

○委員長 竹内 康彦

▽国語科担当
川上 淳子 水島真寿美 梅津 陽

▽算数・数学科担当
兵庫 秀典 川田 彰 山田 智徳

▽理科担当
太田 浩二 山本 賢